歩く人は若返る!

江戸川橋から歩く

緑に囲まれた昔懐かしい風情を残す

神田川周辺散策

新江戸川公園【肥後細川庭園（平成29年3月頃より名称変更）】

新江戸川公園は、目白台台地の自然景観を活かした池泉回遊式庭園です。この公園周辺は、江戸中期以降は旗本の邸地になり、江戸末期には清水家や一橋家の下屋敷となりました。そして幕末には熊本54万石の細川侯の下屋敷に、明治15年には細川家の本邸となりました。その後は東京都が買収し昭和36年に「新江戸川公園」として開園し、昭和50年に文京区に移管されました。

東京カテドラル聖マリア大聖堂

第２次世界大戦で全焼した聖堂は、ドイツのケルン教区の支援により再建が決定。丹下健三氏の設計により、昭和35年（1960）に起工、昭和39年（1964）12月8日落成しました。鉄筋コンクリート造の高さ39.4メートルの十字架形をかたどった構造は、ユニークな教会建築として世界的に知られています。

松聲閣（しょうせいかく）

細川家の学問所として建てられ、一時期は細川家の住まいとして使用されていました。現在の建物は、歴史性を生かし、平成28年１月にリニューアルオープンしました。

水稲荷神社

旧称「冨塚稲荷」と命名されましたが、元禄15年（1702）に霊水が湧き出し、現社名の「水稲荷神社」と改名されました。眼病のほか水商売および消防の神様として有名です。

穴八幡宮

康平5年（1062）に源義家が氏神八幡宮を勧請したことにはじまり、寛永13年（1636）ここに的場が造られ、この八幡宮を守護神としました。

のちに宮守の庵を造るために南側の山裾を切り開いたところ神穴が出現し、中から金銅の御神像が現れ、以来、「穴八幡宮」と呼ばれるようになりました。

江戸時代から続く『一陽来復御守』は、金銀融通の御守として、毎年「冬至」から翌年の「節分」までの期間のみ頒布しています。

永青文庫

細川家伝来の歴史資料や美術品など、約9万点の文化財を管理保存、研究し、一般に公開しています。昭和25年、16代護立公によって、財団法人として設立。毎年4期にわけて所蔵品である美術工芸品を中心に公開展示しています。

永青文庫の開館日には新江戸川公園の日本庭園に直接入ることができる出入り口が設けられています。